

第76回 びわ湖毎日マラソン大会

【出場結果】

実施日 : 2月28日(日)

コース : 皇子山陸上競技場→柳が崎→瀬田唐橋西詰→石山寺→瀬田川洗堰→瀬田唐橋東詰→
県立漕艇場→新瀬田上水場前折返し→皇子山陸上競技場(42.195 km)

出場者 : 加藤 平

リザルト:

| LAP ()は5 km毎のLAP | 加藤 |
|----------------------|-----------------------------------|
| 5 km | 15'36" |
| 10 km | 31'21" (15'45") |
| 15 km | 47'06" (15'45") |
| 20 km | 1:03'33" (16'27") |
| ハーフ | 1:07'03" |
| 25km | 1:19'28" (15'55") |
| 30 km | 1:35'47" (16'19") |
| 35 km | 1:51'45" (15'58") |
| 40 km | 2:07'46" (16'01") |
| GOAL | 2:14'42" (新電元記録) |
| 順位 | 95位/335名 |

【レポート】

数々の名ランナーがオリンピック代表を賭けて熱戦を繰り広げてきた本大会も、今回の大会を以て終了となりますが、コロナ禍の中、国内の主要大会が軒並み中止となったため、国内の有力ランナーが出揃い、過去に類を見ないハイレベルな大会となりました。

当社からは昨年末に行われた防府読売マラソンで初マラソンに挑戦した加藤が、1997年にOBの三上さんが記録した新電元記録(2時間16分6秒)を塗り替えることを目標に出場しました。

防府読売マラソンでは20km過ぎ迄、先頭集団に喰らいつuitたものの、後半はマラソンの洗礼を受ける形となり大きくラップを落とす展開でしたが、今回は確実に新電元記録を更新するために事前に設定したペースでレースに挑み、設定LAPとしては3'13"/kmを切るペースでレースを進めることに徹しました。



全国の有力ランナーが一斉にスタート



設定した LAP を確実に刻む加藤

加藤は冷静に設定したペースを刻み、中間地点を1時間7分03秒で通過すると、集団がペースを牽制し始めたため、積極的にペースを切替えて3分10秒/km前後のリズムに戻し、集団の中でレースの主導権を握りました。



マラソンで一番きつくなる30km以降も前半余裕を持って走っていたため、ペースダウンもなく前から落ちてくる選手を次々と抜き去り、ひたすらにゴールを目指して走りました。



ラスト5kmも伸びのあるストライドで快調に走る加藤



新電元記録を更新し、笑顔が溢れる加藤

【総括】

結果、加藤は2時間14分42秒でゴールし、新電元記録を1分以上も更新しました。

当時100kmロードレースの日本記録を打ち立てるとともに、世界チャンピオンになった三上さんの記録を更新出来たことは、フルタイム勤務をこなす傍ら、競技者として目標に向かって真摯に取り組んだ努力の賜物です。

今回のレースは有力ランナーが出揃い、富士通の鈴木健吾選手の日本新記録更新、2時間10分を切る選手が42名という、過去に類を見ないレースとなりましたが、加藤がそのレースに出場して目標を達成出来たことは、今後の競技人生にとって大きなプラス材料になったものと考えます。

チーム方針として、今後も選手たちはフルマラソンにチャレンジして参りますので、加藤以外の選手たちも、もう一つ二つ上のステージで戦えるよう、日々の練習に精進を重ねて参ります。

最後に、今回コロナ禍の状況にもかかわらず、遠征レースを実現頂きました会社関係者の皆様には、この場をお借りし、あらためて御礼申し上げます。

今後とも、皆様の温かいご声援をお願い致します。

以上